

# 報恩寺だより

## 大般若祈祷会勤修について

5月17日は、おたすけ観音の縁日です。皆様の室内安全、身体健全、諸災消除、諸縁吉祥を祈り、大般若祈祷会を次により行いますので、お誘い合わせのうえ御参詣くださるよう、ご案内申し上げます。

### 記

期 日 平成23年5月17日(火)

日 程 午後1時 御詠歌  
午後2時 大般若祈祷会  
午後3時 落語 隅田川 馬石 師匠  
午後4時 小斎

祈祷料(2,000円)は、この報恩寺だよりを郵送した封筒にいれ、  
当日御志納お願い致します。

## 特別御寄進

次の方々から特別御寄進を頂きました。各位の御芳志に感謝すると共に供養菩提のご冥福をお祈りいたします。

平成21年10月	早川 和雄様	平成22年5月	小山田 健様	平成23年1月	鈴持 雅彦様
平成21年11月	山本 久子様	平成22年6月	戸井田壽一様	平成23年2月	柏木 黙様
平成22年3月	小山田トミ子様	平成22年10月	近藤 博保様	平成23年3月	小山田トミ子様
平成22年5月	重森 勲様	平成22年11月	小山田スミエ様		
平成22年5月	山口 裕久様	平成22年12月	柏木 英行様		

### ◆報恩寺年間行事予定◆

4月 8日	花祭り	12月 8日	成道会
5月 17日	大般若祈祷会	12月 31日	除夜の鐘
8月 7日	大施餓鬼会	1月 1日	お年始詣り
9月 9日	大本山總持寺参拝	2月 15日	涅槃会
9月 15日	秋彼岸会法要	3月	春彼岸会法要

No. 41

平成23年4月15日発行  
おたすけ観音 報恩寺  
綾瀬市寺尾南2-10-1  
電話 0467-78-7160  
FAX 0467-79-1567

## あめおとこ？ はれおとこ？

平成22年10月4日・5日報恩寺梅花講の皆様と坂東観音霊場めぐりに行ってまいりました。1日目はしっとりとした情緒ある雰囲気のなかお参りさせていただきました。

私は今まで1泊2日以上の旅行をする時、雨が降らなかったという記憶がほとんどありません。それが曹洞宗の全国大会であり、報恩寺梅花講のお参りであれ、家族旅行であれ如何なる規模の旅行でも必ず雨の恵みをいただきます。ですから、雨の備えはいつも万全です。

いわゆる、「雨男」なのかもしれません。「晴れ男」「晴れ女」とおっしゃる方と一緒にでも雨は降ります。ただ、全行程雨が降り続けるわけではなく、雨上がりの清々しい青空や、えも言われぬような感動的な夕焼けに出会えたりします。そのような時には思わず手を合わせ「素敵なご縁をありがとうございます」と感謝の気持ちでいっぱいになります。

短い旅行の中で雨も降れば風も吹く、すばらしい旅行日和で出発し次の日には大雨波浪警報の中を帰ってくるという時もありました。しかし必ず晴れるときがやってくる。ということは「晴れ男」といってもいいのでしょうか?いろいろな天候を体験させていただく全天候型雲水とも言っておきましょうか、雨が降っているときは、お観音様にお守りして頂いている~~しる~~しなのだと思い、そのあとには必ず素晴らしいご縁が待っていると信じています。

雨が降るもの、風が吹くのも、晴れるのも、全てはお観音様のお導きと思い全てをお任せして勤めさせていただいております。



1日目はずっと雨模様



2日目、伊香保温泉の宿から眺め



2日目、岩殿山安楽寺にて

## 大本山總持寺御移転100年記念慶讃報恩法会参拝団のご案内

別紙のとおり大本山總持寺御移転100年に合わせまして平成23年9月9日(金)に報恩寺といたしまして慶讃報恩法会参拝団を企画いたしました。皆様お誘い合わせのうえご参加くださいますようお願い申し上げます。

(※雨天決行 雨具のご用意を忘れずにお願いいたします。)



うたうサボテン

創作仏教おとぎ話

朝、目を覚ますと、いつも同じ風景が広がっている。乾いた大地と、照りつける太陽。わたしは、ずっとここにいる。

ときおり、馬に乗った旅人が、わたしの前を通りしていく。でも、だれもわたしのことを感じしない。なぜなら、わたしは一本のサボテンだから。

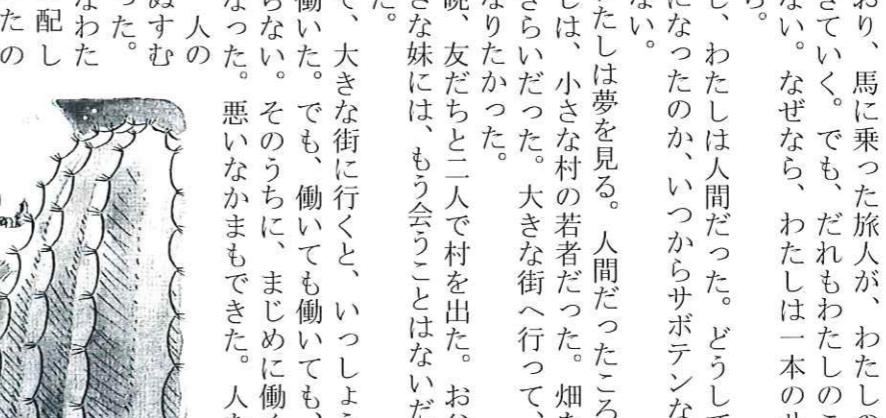
むかし、わたしは人間だった。どうして、サボテンになつたのか、いつからサボテンなのか、分からぬ。

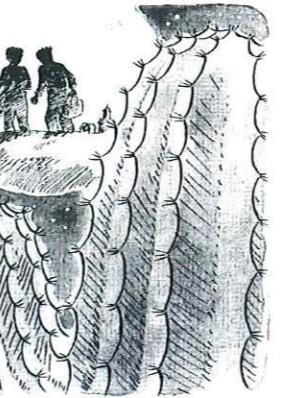
夜、わたしは夢を見る。人間だったころの夢。わたしは、小さな村の若者だった。畑を耕す仕事はきらいだつた。大きな街へ行つて、大金持ちになりたかつた。

ある晩、友だちと二人で村を出た。お父とお母と小さな妹には、もう会うことはないだろう、と思つた。

そして、大きな街に行くと、いっしょうけんめいに働いた。でも、働いても働いても、お金はたまらない。そのうちに、まじめに働くのがいやになつた。悪いなかもできた。人をだましたり、人のものをぬすむ毎日だつた。

そんなわたしが心配してくれたのは、いっしょに村を出でた友だちだつた。





トカゲはにつこりと笑うと、わたしのからだにかじりついた。少しくらい食べられても平気だ。だって、わたしはサボテンだ。すぐに新しい芽が出てくるさ。

トカゲはおなかがいっぱいになると、満足そうにわらいい、からだにあわない低い大きな声でうたいはじめた。

「過ぎ去った昨日を追いかけないで、  
まだ来ない明日に悩まないで、  
昨日はすでに流れ去り、  
明日はまだやつてこないのだから。  
大事なことは、  
今、何をしなければならないのか、  
静かな心とゆるがない心で、  
よく考えること。

そして、それを、行なうこと…」

トカゲはそこまでうたうと、はつとしてまりの様子をうかがつた。わたしは、歌の続きを聴きたくてじれつくなつた。

そのとき、大きなガラガラヘビがどこからか飛び出してきて、トカゲにおそいかつた。

トカゲは、さつと身をかわすと、岩かげへと走つてにげた。ガラガラヘビも、トカゲを追つて岩かげへ消えていった。

トカゲは、にげることができただろうか。わたしは、トカゲの無事を祈つた。そして、トカゲが教えてくれた歌の続きを、知りたくてたまらなくなつた。



A black and white illustration of a cowboy wearing a wide-brimmed hat and a long coat, sitting on a horse in a desert landscape with cacti.

